

びわ湖トラスト 2025年度 親子環境学習講座

# ブライアン・ウィリアムズ先生に学ぶ 水辺の親子写生教室

## & はっけん号乗船体験

山・川・湖「キレイ」を、あしたへ。  
認定特定非営利活動法人

びわ湖トラスト

協賛: 東レエンジニアリング西日本株式会社

後援: 大津市教育委員会



【開催日】 2025年8月24日(日)

【開催場所】 道の駅 びわ湖大橋 米プラザ 2階コミュニティルーム 光彩 (滋賀県大津市今堅田)

【参加者】 親子 19組 41名 (うち、はっけん号乗船: 18組 36名)

… 子供 20名 (小1;4名、小2;3名、小3;3名、小4;6名、小5;2名、小6;2名)  
大人 21名

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 10:00 ~ 10:10 | 開会 (オリエンテーション)     |
| 10:10 ~ 11:00 | 講義: ブライアン・ウィリアムズ先生 |
| 11:00 ~ 15:00 | 自由写生 & はっけん号乗船体験   |
| 15:00 ~ 15:30 | 作品発表 & 講評、+集合写真撮影  |

## プログラム



## Introduction

毎年恒例の親子環境学習講座 「(風景画家) ブライアン・ウィリアムズ先生に学ぶ水辺の親子写生教室」 を、今年も昨年と同様 「道の駅 びわ湖大橋米プラザ」 において開催しました。

米プラザは、琵琶湖大橋の西詰めに位置する道の駅で、1階に滋賀の生鮮品・加工品の直売所やお土産売店ならびにレストラン、2階にコミュニティルーム(研修室)や休憩所を備えた琵琶湖汽船株式会社が運営する施設です。この施設は琵琶湖岸に位置し、琵琶湖の素晴らしい景色を眺望できるため写生のポイントとして最適な場所であるとともに、船が停泊できる琵琶湖汽船の桟橋が併設されているため、びわ湖トラストが所有する実験調査船「はっけん号」への乗船体験企画も併催行事として実施できるという望ましいロケーションを有しています。このため、写生教室の定例イベントにおいては、この米プラザをほぼ毎年会場として利用させていただいています。

当日は幸い好天に恵まれ、猛暑の厳しさはあったものの、写生にも乗船体験にも好適な日となりました。



道の駅 びわ湖大橋米プラザ

ブライアン先生の写生教室は大変人気の企画で、毎年定員を上回る応募者の中から抽選で参加者を決めていますが、今年は特に事前の申し込み者が多く、親子 15 組 30 名の公募定員に対しその倍以上の 30 組 75 名もの応募・申し込みがありました。

できるだけ大勢の皆さんに参加していただきたい気持ちはありますが、会場に入れる人数とはっけん号に乗船できる定員の制約から応募者全員という訳にはいきません。そのため今年ははっけん号乗船者を乗船定員ぎりぎりの 36 名まで許容するとともに、乗船無しで写生のみの参加とする親子枠を設けて参加人数を写生会場に入れる限界まで拡大し、最終的に親子 19 組 41 名（うち、はっけん号乗船 18 組 36 名）を抽選で選び、開催することとしました。

抽選で外れた 11 組 34 名の皆さんには大変申し訳なく心苦しい限りですが、なにとぞご理解・ご容赦いただきますようお願いします。



## オリエンテーション

冒頭ご挨拶  
(福家理事長)



満員・満席状態の当日の会場では、参加親子の皆さんのが期待感をもってイベントの開始を待つ中、会場前方中央でブライアン先生が講義の準備のため専用画台を組立て始め、その様子が早くも会場の注目を集めました。さらに、画台のセットが終わると、まだ司会者が開催宣言もしていない段階から画台に向かって湖岸風景の絵を描き始めるというブライアン先生の意表を突く行動に皆が目を見張りました。ブライアン先生が描いたのは、彼があみ出した「曲面画」という独特な絵画手法による風景画であり、特徴的な形に切り出した紙（キャンバス）に描いた上で、後にそれを同じ形に切り抜いた木板に張り付け加工を施することで、より立体感のある絵に仕上げるというものです。おそらくほとんどの人が初めて見るプロ画家のなれた手つき、素早い筆の動きで瞬く間にキャンバス上に美しい琵琶湖の風景が描かれていくのを見て、驚きと感心を寄せる子供たちが次第にブライアン先生の周りに集まり、その様子を興味深く観察する姿が印象的でした。

イベント開始時刻の 10 時になる頃には既に 1 枚の絵が概ね描き上がっているように見えましたが、まだ細かい部分の描画は続いていたため、この時点で一旦手を止めていただき、改めて司会の方より写生教室の開催を宣言しました。その上で、初めにびわ湖トラストの福家俊彦理事長より冒頭の開会ご挨拶を申し上げた後、司会による注意事項等説明のオリエンテーションを経て、当日の、写生教室をスタートさせました。



お手本の絵(曲面画)を描く  
ブライアン先生





## 写生教室(ブライアン先生の講義・指導)

写生教室では、初めの約 50 分間、ブライアン先生に琵琶湖のことや、写生の基本について講義をしていただきました。

前半の琵琶湖についての講義では、琵琶湖に生息・生育する様々な生き物が水質浄化の機能を担っており、その働きによって琵琶湖の生態系が保たれていること、それにより琵琶湖を糧とする人々の暮らしが支えられていること、ゆえに美しい琵琶湖の自然環境を保全していくことが自分たちにとって如何に大切なことであるかを、子どもたちにも解り易く流暢な日本語で説明してくださいました。

長年琵琶湖と向き合ってきたブライアン先生の琵琶湖に対する深い思い・愛情が伝わってくるような講義内容でした。



琵琶湖についての講義

熱心に講義を受ける  
参加親子の皆さん



後半の写生についての講義では、先ほどの曲面画とは別に通常の画用紙を新たに画台に貼り、写生の基本テクニックについての説明をしながら、自ら筆をとってその実演を披露されました。

空の青色のグラデーションのかけ方、画用紙の白を生かした雲の描写の仕方、水面の細かい波模様の描き方、前景となる草木の表現の仕方など、具体的な描画のコツについて丁寧に教えていただきました。

また、途中からは子供たちを前に一人ずつ呼んで順番に筆を持たせ、今教えたことを実際にキャンバス上に加筆・体験させてことで、描き方を少しでも身に付けてもらうための指導もありました。

この写生実演の講義においては、毎年ブライアン先生のサポートとして支援していただいている武川裕子先生（以下、ひろ子先生）が時折ブライアン先生をからかうような声掛けをして会場の笑いを誘い、お二人の愉快な掛け合いで場を一層盛り上げてくださいました。

お二人から伝わってくる親しみやすい人柄に、子どもたちの緊張はすっかり解れ、お陰でとても和やかな雰囲気で写生教室のイベントを進行することができました。



写生の基本テクニックについての講義

ひろ子先生



## 親子での自由写生

講義の後は、参加者親子にはそれぞれ好きな場所に移動し、自由に写生を楽しんでもらいました。



サポートのひろ子先生から、写生は子供たちだけでなく親御さんたちも一緒に描くよう促され、全員に画用紙が配されました。外は猛暑であったため、大半の親子は冷房の効いた研修室内で床に敷いたレジャーシートに画板を置いて、あるいは研修テーブルに持ってきた画材道具をセットして親子で和気あいあいと写生を始めましたが、何組かはバルコニー等の室外に出て日陰を選んで場所を確保し、親子水入らずで写生の時間を楽しんでいるようでした。



好きな場所から写生を楽しむ参加親子の皆さん

子供たちは勿論頑張って、自分の感性で捉えた風景を画用紙いっぱいに描いていましたが、むしろお父さんお母さんの方が夢中と思えるくらい、真剣に景色を見つめながら筆を動かしている様子が印象的でした。おそらくお子さんと一緒に写生をするのは初めて、あるいは写生をすること自体が中学校または高校を卒業して以来という人も多かったことと思います。

先ほどのブライアン先生の講義では、前述の基本テクニックの他に、予めの下書き線は入れずに見えるまま直接着色していく方がいいことや、黒の縁取り線は書かない方が写実感を増すなどのアドバイスもあり、ほとんどの親子が苦戦しながらもそれを実践していたようでした。

そのような中、ブライアン先生とひろ子先生が順番に各親子のところを廻り、個別に色々と描き方のコツを指導して下さり、そのお陰で誰もがより前向きに久しぶりの水彩画を楽しむことができていました。プロによるこれらの直接の指導は、参加者の皆さんにとって新鮮で、とても良い刺激になったと思います。



絵の指導をして廻るブライアン先生とひろ子先生



自由写生の時間内に「はっけん号」への乗船体験を行いました。

はっけん号は、びわ湖トラストが様々な調査・観測・教育に利用している実験調査船で、総重量 36 トン、航海速力 20 ノットの双胴船（二つの船体を甲板で平行に繋いだ船）です。

道の駅 びわ湖大橋米プラザに隣接して設けられている桟橋（琵琶湖汽船管理）を停泊に利用させていただくことを前提に、米プラザ会場での写生教室の併催イベントとして恒例化（※）しており、昨年に引き続き今年も実施しました。※ただし、2021、2022 年度は新型コロナ感染拡大等の影響により中止

乗船定員の関係で船長・機関士などの乗務員・スタッフを除く乗客数を 12 名以内に抑えなければならない制約から、当日は 18 組 36 名の参加者親子を 2 名 1 組で 6 組ずつ A、B、C の 3 グループに分け、順番に乗船してもらうこととしました。



はっけん号外観

#### 桟橋で温品船長の説明を受ける参加親子の皆さん

各グループの運航配分時間（乗船・下船時間含む）は次のとおりとしました。

Aグループ（親子 6 組 12 名） 11:40～12:30

B グループ（親子 6 組 12 名） 13:10～14:00

C グループ（親子 6 組 12 名） 14:00～14:50



各グループの親子には乗船時刻の 10 分前に研修会場隣の休憩スペースに集合してもらい、びわ湖トラストのスタッフがはっけん号の停泊している桟橋まで誘導。そこで温品船長による指導のもと全員ライフジャケットを着用して乗船し、参加親子が全員船室内に入室したのを確認した上で、甲板乗務員の合図とともに出航しました。

船の航路は、桟橋から一旦南方に向けて琵琶湖大橋の下をくぐり、南湖の一部を航行して折り返し。次に北に向かい再び琵琶湖大橋をくぐって北湖に進み、マイアミ浜沖辺りまで北上して一時湖上停止。その後折り返し南下して帰路で桟橋に戻るというコースで、航行時間は 約 40 分としました。

小さなお子さんも居て船が航行している途中で甲板に出るのは危険なことから、航行中（往路・復路とも）は船室内で船の運航を楽しんでもらうこととしました。

往路の船室内では、船上講師として乗船いただいた伴修平先生（滋賀県立大学名誉教授、びわ湖トラスト事務局長）より、はっけん号の構造・機能のこと、琵琶湖の変遷や湖底地形、集水域の特徴、生態系などについて解説いただきました。皆熱心に伴先生の説明に耳を傾けていました。



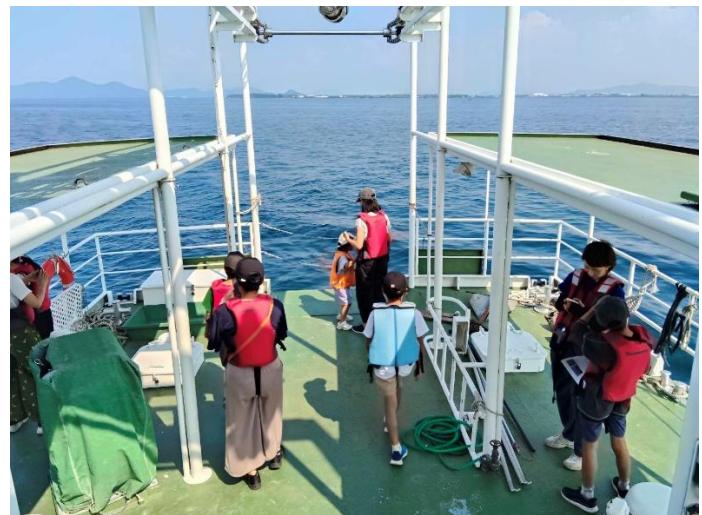
船上講師の伴先生と、説明を聴講する参加親子の皆さん

伴先生のひととおりの説明の後は、船室内の窓から自由に航行中の外の景色を眺めてももらいましたが、北湖での湖上停泊のときには全員甲板に出てもらい、親子で自由に広大な湖の景色や湖面の状況などを直接自分の目で観察してもらいました。

琵琶湖の内側から湖面を介して湖岸やその背景の山々を眺めることは普段なかなか経験できないことであるがゆえに、参加親子の皆さんは先ほど聴いたばかりのブライアン先生や伴先生の講義・解説を思い出しながら、それぞれ色々な思いで琵琶湖の雄大さを実感されていたことだと思います。

一定時間(7~8分)の湖上停泊の後は、時間を見計らって航行を再開し、はっけん号は琵琶湖大橋桟橋に向かって水しぶきをあげながら帰路に就きました。その後各グループとも無事にほぼ時間どおり桟橋に帰港し、それぞれ約40分間の運航を終了しました。

参加親子の皆さんは、写生に加えて乗船体験までできたことに大変満足してくれた様子で、このことは当イベント終了時に回収したアンケート結果からも読み取ることができました。主催者としては企画が成功したと認識できたことに安堵するところです。



甲板から琵琶湖を観察する参加親子の皆さん



帰路で桟橋に向かうはっけん号



## 作品発表 & 講評

はっけん号乗船が全て終了した後は、15時から写生の作品発表会とブライアン先生による講評が行われました。

講評は3つに分けたグループごと順番に、会場正面に親子の作品を並べて公開した上で、その1枚1枚についてブライアン先生から良く描けている点や特徴的なポイントを評するコメントやアドバイスをいただくという形で行われました。

事前に指導のあった薄い色から順に重ね塗りを行う書き方が実践されている、画用紙の白を活かして塗りつぶさずに雲を表現することで透明感を出す残し塗りが実践されているなど、水彩画の基本が押さえられている絵については特に褒めの言葉があったほか、筆使いの力強さ、色使い、全体のバランス、細かい部分の描写・表現、独自性など、各絵の特徴を的確に捕らえた優しい口調かつユーモアを交えた丁寧な説明に、誰もが自分の絵を誇らしく感じられたことでしょう。



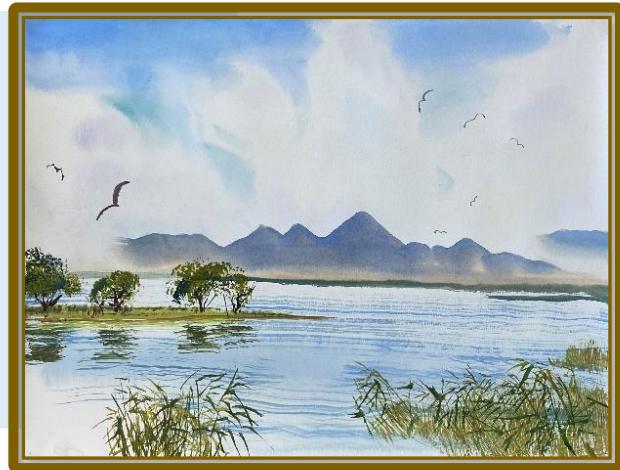
並べられた作品 1枚1枚に講評されるブライアン先生

こうして全ての絵に対する講評を終えた後、ブライアン先生が講義で描かれたお手本の絵をプレゼントするというご褒美企画がありました。

ひろ子先生の掛け声のもと、前に集まった子供たちがジャンケンをし、最後まで勝ち残って絵を獲得した女の子はとても嬉しそうでした。



ジャンケンに勝ち抜いた女の子と獲得した模範絵



このようなサプライズで会場の盛り上がりも最高潮となった中、無事に写生教室を終了し、最後に全員で記念撮影をして、このイベントの閉会としました。

どの親子にとっても、この写生教室はきっと夏休みの思い出の一コマとして、心に刻まれたのではないかと思っています。

(以上 尾藤 記)



全員で記念撮影

講師：ブライアン・ウィリアムズ (Brian Williams) 氏

プロフィール

大津市の湖西里山に在住するペルー生まれのアメリカ人です。

カリフォルニア大学で美術を専攻後、1972年に世界旅行で立ち寄った日本の自然・風土に魅せられそのまま定住。四季の移ろいを感動の心で追う風景画家として国内外を写生旅行し、数々の水彩画・油彩画・版画を作品発表されています。

大阪梅田ナビオ美術館・滋賀県立近代美術館他(1996)、近江八幡かわらミュージアム(2002)、

松山三浦美術館(2006)、滋賀県佐川美術館(2007・2012)、清須市はるひ美術館(2013)、京都高島屋(2020)などでの数々の展覧会の開催をはじめ、「日本を描いて20年」(ふたば書房)、「心の風景画」(求龍堂)、「びわ湖・ブライアンの目」(ふたば書房)など多数の絵画・エッセー集も刊行。

琵琶湖博物館では、常設展示「380万年前の琵琶湖」再現原画作成(2003)に加え、2022年9月には来日50周年を記念して大型曲面油彩画(570cm×160cm)「琵琶湖・四季彩」を寄贈されています。



岡山大学教育学部特別教科(美術・工芸)教員養成課程卒。

高校・中学校・小学校などの美術の教師を勤められてきた先生で、毎年ブライアン先生に同行して、当写生教室でのブライアン先生の講義の補助や参加親子の写生指導サポートをして下さっています。



補助講師； 武川裕子氏  
(ひろ子先生)  
プロフィール

## 《《 参考 1 》》 当日スタッフ

運営担当	尾藤 武	びわ湖トラスト 理事
事務局	宮畠 孝子	びわ湖トラスト 事務員
ボランティア	岩崎 功志 田原 瑠衣斗	びわ湖トラスト 理事 びわ湖トラスト 会員

## 《 参考 2 》 当日はつけん号運航

船上講師	伴 修平	滋賀県立大学名誉教授、びわ湖トラスト事務局長
乗務員	温品 拓也 古市 勝 辻 英人	船長 機関士 機関補助